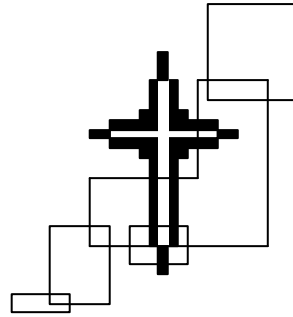


# 日本のための とりなし



わが国のために祈りましょう  
ニュースレター 10月号  
2005年10月1日発行

日本のためのとりなしの会	委員長：皆川 尚一(神奈川県)
事務局：〒228-0802	委員：友納 徳治(福岡県)
相模原市上鶴間 6-1-17 皆川方	釘宮 義人(大分県)
TEL042-747-5703	高田和彦(東京都)
FAX042-746-2119	町田 誠(千葉県)
<a href="http://www.Christ-ch.or.jp/">http://www.Christ-ch.or.jp/</a>	中原 耕平(千葉県)
*振替：00270-7-6421	

## 松山高吉著「神道起源」(第1回)

### 著者についてのご紹介

皆川尚一

松山高吉(たかよし)は1846(弘化3)年越後系魚川(いといがわ)の儒者の家に生まれました。幼少の時から漢学、国学、白川伯家(はっけ)神道を学び、勤皇の志士として奔走、キリスト教を邪教として排斥するために、1872(明治5)年神戸のグリーン宣教師について聖書の真理を学び、2年後に受洗、6年後の1878年には神戸キリスト公会の牧師に就任しました。旧新約聖書の和訳、日本語讃美歌の翻訳、編集、出版事業にも貢献、同志社でも教え、のちに日本聖公会に移って、聖書、祈祷書、聖歌の改訂編纂に尽力し、1935(昭和10)年91歳で帰天されました。

シントウキゲン  
神道起源

マツヤマタカヨシ  
松山高吉

現代文訳 ミナカワヒサカズ  
皆川尚一

日本に「<sup>シントウ</sup>神道」という一種の宗教があります。日本の古史に記された神を祀るのでこう呼ばれています。この「神道」より前に日本固有の宗教がありました。それが「神道」の源であって、いわゆる「神道」なるものは、誤りに誤りを加え、さまざまに枝分かれして成立したものです。それゆえ、真の神道を知ろうとすれば、先ず日本固有の宗教を知らなくてはなりません。固有の宗教は源であって清いものですが、「神道」の教は末であって濁っています。

私は以前このような歌を詠みました。

いにしへの清き流にかえさなん  
世をふる川の末の濁りを

いわゆる「神道」が日本固有のものでないこと、又、その<sup>ゴビョウ</sup>誤謬にはらまれて生まれ出たことは、神道諸派が創り出された状況を見れば大体さとれるでしょうから、先ずその名称の起こりから始めて、宗教となって世に現れ分派していったあらましを述べ、その上で、その源である固有の宗教にまで説き及びましょう。

緒論

神道の名称

「神道」という名称は昔はありませんでした。その名称が初めて歴史書に現れたのは、日本紀元1246年(西暦586年)であり、次は1307年(西暦647年)であります。前者は用明天皇紀に「天皇仏法を信じ、神道を尊ぶ」と記し、後者は孝徳天皇紀に「<sup>カンナガラ</sup>惟神」を注解して「神道に従いて、またおのずから神道あるをいうなり」と記しています。しかし用明天皇紀の方は祭祀のわざをいい、孝徳天皇紀の方は天皇の子孫が日本に君臨するのは天の神の定めた道であるという意味なので、両者とも宗教をさして言ったのではありませんから、当時は未だ宗教はなかったことがはっきりしています。

## いつ宗教になったか

「<sup>シントウ</sup>神道」という名の宗教になったのは紀元1400年(西暦740年)より後のことでしょう。僧の<sup>クウカイ</sup>空海が紀元1464年(西暦804年、支那貞元20年)に唐に渡り、帰国後「<sup>シンゴンシュウ</sup>真言宗」をひらきました。真言宗には、<sup>コンゴウカイ</sup>金剛界、<sup>タイソウカイ</sup>胎蔵界という二つの教説があって、これを<sup>コンタイリョウブ</sup>今胎両部と言います。この両部の教説に日本の神々のことを<sup>マジ</sup>混えて一つの教を立てたのが「<sup>リョウブシントウ</sup>両部神道」と称せられるものです。これが宗教という名で神道が世に出現した始まりでしょう。

## <sup>リョウブシントウ</sup>両部神道

両部神道は、名は神道であるが、その実は仏法を広めるための方便から出て来たものです。それは僧の<sup>ギョウキ</sup>行基が<sup>ホンチスイジャク</sup>本地垂迹説を中心

として極めて巧みに説を作りなし、神と仏は別のものであるという感じを除去して、ついには古来日本国民が尊崇して来た神社をも仏教に併合して宗教の権を一手に握ろうという野心から作り出したものです。

両部神道がだんだんに盛んになるにつれて、神社に寺院を建て添えて神宮寺と称し、その寺僧が社務をもつかさどることになったので、ついには一切の権威が僧侶の手に握られ、神官はその顎の下で使われる奴僕のようにになりました。神官がこのような事をどうして永く耐え忍ぶことが出来ましようか。その権威を回復して<sup>ゴウゼン</sup>傲然たる僧侶を神社から追放したいと思わないでしょうか。

## <sup>ユイツシントウ</sup>惟一神道

紀元2100年代(西暦1400年代)になると、京都の吉田神社の神官で<sup>ウラベカネトモ</sup>卜部兼俱という人が<sup>カネノブ</sup>祖先兼延の説であると称して一つの神道を起こしました。これを<sup>ユイツシントウ</sup>惟一神道と言います。<sup>ユイツ</sup>惟一とは<sup>ジュ</sup>仏教や<sup>マジ</sup>儒教を混えないものという意味です。その説によれば、この道は天から出て次第に受け継がれ<sup>ナカトミケ</sup>中臣家に伝えられたものであるという事です。

〔注〕中臣氏は古代から神?の事を司った家です。卜部氏は<sup>キボク</sup>龜卜即ち占いによって神?官に隷属した家で元来貴族ではありません。しかし卜部氏が中臣氏と同姓であると自称したのでこの説が生まれたのです。そして神社に寺を設けず又社僧を置きません。このように寺を設けず僧を置かない点だけは惟一の名に相応しいと言えるかも知れませんが、行うところのわざと説くところの説を良く見れば、やはり惟一ではありません。

あちこちに仏教や儒教の思想を混ぜ合わせ、両部神道の粕<sup>カス</sup>と思われる部分も少なくないのです。紀元2200年代(西暦1600年代)には惟一神道が一変して専ら儒教に傾いたり、あるいは朱子学の衣裳をまとい、あるいは陰陽五行の思想で飾られたりしました。

### モトオリ ヒラタ 本居・平田の神道説

このように神道の色々な流派が世に現れ出て、日本固有の宗教はますます隠れて行きました。神が神でなく、仏が仏でなく、儒が儒でなくなり、こじつけの作り話や無意味な議論が世の中に充満して世の道や人の心を危うくしましたので紀元2400年代(西暦1700年代)に至って本居宣長<sup>モトオリノリナガ</sup>や平田篤胤<sup>ヒラタアツタネ</sup>などという学者たちが出てわが国の学問のために力を尽くし、古代の歴史書を解釈したり、古代の文学や文章を解明したり、千年も続いた誤りを正して日本固有の宗教を明らかに世に示そうとし、あわせて両部<sup>リョウブ</sup>・惟一<sup>ユイイツ</sup>等のいつわりを排除し、誤りを弁別したりしました。彼らの説は明治維新の前後には非常に盛んになり各藩の中には仏を捨て寺を廃することさえあり仏法もほとんど危うく見えたほどでした。明治元年には政治の上にも勢力を及ぼし、菩薩・権現等の神号を止め、仏像を神体とすることを禁じ、社務に従事する僧侶には毛髪をたくわえさせました。

〔注〕菩薩は元来仏号ですけれども、両部神道が行われた後は、神にこの称号をつけました。権現は仏が権<sup>カリ</sup>に神として現れるという意味で神にこの称号をつけるのです。仏像を神体とするというのは本地垂迹説に従って神体を取り除いて仏像に替えた神社が多かったからです。

次でまた信仰の自由制度が発布さ

れたので、それぞれの流を汲む者が団結して教会を立て、説の異同に応じて色々な流派を成してそれ相応の信徒を持つようになりました。

本居・平田の説は、両者の間に多少の違いはありますが大要は同じです。ここに概略を説明しますと、「儒教も仏教も共に人が造った教である。外国はその風俗が悪いので教の必要

があり、又、人の気風が小賢<sup>コザカ</sup>しいので、種々の理屈を作って教を立てて来た。しかるに、わが国は神がお造りになった<sup>モト</sup>本の国であり、もろもろ

の国の親国であるから<sup>クニガラ</sup>国風も良く民の心も素直であって教を立てなくともおのずから人の道が守られている。その道は人が造ったものではなく、

又、老子<sup>ロウシ</sup>などがいう自然の道でもない。本源を天地創造の神に発して、伊弉諾<sup>イザナギ</sup>伊弉冉<sup>イザナミ</sup>の二尊(日本国民の始祖とされる男女の神)に伝わり、二

尊から<sup>アマテラスオオミカミ</sup>天照大神に伝えたところの道である。国民はみな生まれつきこの道を授けられているので自分勝手な考えを加えないでいれば、その

道が現れるのである。<sup>ジョウダイ</sup>上代は大らかで自分勝手な考えを混ぜることをしなかったので、もろもろの神々の行いには自然にその道が現れている。であるから古事記、日本書紀等について神々の事跡を探求してその生き方をうやうやしく見習うべきである」というのです。

本居・平田は近来まれに見る大学者であって、これまで誰も発表しなかった優れた学説が少なくないと言えますが、それでもなお古来の学説

が先入主となっているのでしょう。古史の分かり易い所をも解釈を誤りたびたび文字にとらわれて意味内容を取りそこないました。そのゆえに両氏の流を汲んで起こった神道においては、両氏が明らかに示したいと思った古道（日本固有の宗教）は顕示されることなく、反って間違った説を生い茂らせてしまいました。

## 神道の分派

前述したほかにも神道の流派は沢山あります。その中には両部に似たものもあれば、唯一の同類もあり、本居・平田の流のように見えて全然そうでないものもあり、古代から聞いたこともないような神名を唱えて神奉するものもあり、天・地・金の三者を崇拜して祀るものもあり、その有様は千態万状です。（仏法も多数の分派を生ずる傾向があります。）現代の宗教を良く見て、国民の信仰を観察すれば「迷える羊だなあ」との嘆きを感じます。羊に声を知られた大牧者は何処にいますのでしょうか。その大牧者の愛と救いの呼び声に応じて迷える羊が集って来て一人の牧者に帰一する日はいつくるのでしょうか。その大牧者とは誰でしょうか。世代を経るに従って牧者数はふえ、羊たちの迷いはますますひどくなるばかりです。羊のために命を惜しまない真の大牧者をこそ今の日本は必要としているのであります。

## 現在の神道諸派の名称

現在の神道諸派の名のあらましを列記すると、「<sup>ジンクウキョウ</sup>神宮教」（伊勢神宮を本拠とする）、「<sup>タイシャキョウ</sup>大社教」（出雲大社を本拠とする）、「<sup>クロズミキョウ</sup>黒住教」（天照大御神を祭神とする）、<sup>タイセイキョウ</sup>「大成教」（天御中主神、高皇産霊神、神

皇産霊神等を祀る）、<sup>シンシュウキョウ</sup>「神習教」（同上）、<sup>シュウセイキョウ</sup>「修成教」（同上）、<sup>ジッコウキョウ</sup>「実行教」（同上）、<sup>オンタクキョウ</sup>「御嶽教」（国常立尊、大己貴神、少彦名神等を祀る）、<sup>シンドウハ</sup>「神道派」等です。この諸派から又、更に分かれて数十の小派が生まれました。その一部を挙げますと、神宮教からは<sup>ツキヨミ</sup>月読教会、<sup>ケイシン</sup>啓神教会。大成教からは<sup>タイソ</sup>太祖教会、<sup>マカネ</sup>真金教会、御嶽教からは<sup>タイゲン</sup>大元教会、神習教からは<sup>メイセイ</sup>明誠教会、神道派からは<sup>キンコウ</sup>金光教会、<sup>テンリ</sup>天理教会、<sup>テンシン</sup>天心教会、<sup>ミカネ</sup>御金教会などが生まれました。

これらの諸派のうち最下等の神道まで行けばその出所もわからない、その祭神も明らかでないものもありますが、そのほかはみな古史を本拠として、それに記載された神たちを奉祀しています。派毎に祭式行事に多少の差異はありますが、要するに、信徒のために祈禱をつとめ、病者のためにまじないを行い、<sup>ショウフクジョウカ</sup>招福攘禍のために<sup>ハライ</sup>お祓除をし、神に供えた物を分配し、<sup>オフダ</sup>神符を与え、又、<sup>カグラ</sup>神楽を演奏して神の心を慰める等のことを行うのであります。

## 日本の古史

彼らが本拠とする古史のうち最も重んじ尊ぶところのものは<sup>コジキ</sup>古事記及び<sup>ニホンシヨキ</sup>日本書紀です。古事記は<sup>テンム</sup>天武天皇（紀元332年に即位。西暦672年）が<sup>キョウジコデン</sup>旧辞古伝が次第に滅びて行くことを歎き、広く諸々の家に伝承されている古い記録をさぐり、神話・伝説・歌謡などの伝承

を研究し、先ず天皇御自身が朗誦してから、  
 当時記憶力抜群と評判の<sup>ヒエダノアレ</sup>稗田阿礼に<sup>チヨクゴ</sup>勅語して記憶させられました。しかし、未だ書物にならないうちに天皇が崩御されたので、後代  
 の<sup>ゲンミョウ</sup>元明<sup>ワドウ</sup>天皇の和銅5年（西暦720年）に至り、<sup>オオノアソンヤスマロ</sup>太朝臣安磨がその勅語を<sup>アレ</sup>阿礼の口から写し取ったものです。その記事は神代に始まり、<sup>ジンノウ</sup>人皇第33代<sup>スイコ</sup>推古天皇（紀元1253年に即位、西暦593年に当たる）に至るものです。この書は三巻あり、日本書紀のように詳しくありませんが支那風の虚飾がないので古代の言葉や古い事柄がそのまま伝承されている非常に大切な書物です。日本書紀は<sup>ゲンシヨウ</sup>元正<sup>ヨウロウ</sup>天皇の養老4年（西暦720年に当たる）<sup>イッポントネリ</sup>一品舎人<sup>シンノウ</sup>親王及び<sup>オオノヤスマロ</sup>太安磨、<sup>キノキヨヒト</sup>紀清人等が天皇の<sup>ミコトノリ</sup>勅を奉じて編集奏上したものであって、

神代より人皇第41代<sup>ジトウ</sup>持統天皇（紀元1347年に即位、西暦687年）までの事を記し、巻数30、支10を加え、年月日を細記し大小洩れなき詳密の書であります。ただ一つの難点は支那の歴史文体を真似ているので、往々にして文を飾り過ぎ、事実を誤記していることです。しかし、日本建国の由来、国民発達の情状などを知らうとするならば主として本書と古事記とに拠らねばなりません。国民の宗教や信仰が何であるかを窺い知るにもこの二書が良いと思います。この二書のほかには、<sup>コゴ</sup>古語

<sup>シュウイ</sup>拾遺、<sup>オオハライノコトバ</sup>大袂詞、<sup>エンギシキ</sup>延喜式という祝詞、<sup>ノリト</sup>出雲

<sup>クニノミヤツコノカンヨゴト</sup>国造神寿、<sup>フドキ</sup>古き風土記、<sup>マンヨウシュウ</sup>万葉集等があって日本固有宗教の研究資料となっています。

## 日本に神典なし

このように日本固有の宗教につき、国民の宗教につき、国民の信仰につき、その思想・感情・道徳などのことを知るのに便利な古書は少なくありませんが、いずれも神典とか経書とか言えるものではありません。ことに古事記、日本書紀のようなものはハッキリした歴史書です。それなのに神道家、和学者たちはこれを歴史とせず、神典として尊信しています。尊信のあまり一言一句そのまま丸呑みにして、言外の意味を求めることをしないのです。そのため彼らの見解の多くは奇怪であって、史実を<sup>インメツ</sup>湮滅し、また日本固有宗教の真理を顕示することが出来ませんでした。

## 日本固有の宗教

日本国民は上古から「ある種の宗教」を持っていました。しかしその宗教は仏教やイスラム教のように教祖によって造り出されたものではありません。それゆえ宗名もなければまた経典もありません。無名無言の教であって歴代の祖先が知らず知らずの間に伝えてきたものです。名称はなくても実力はあります。書いた教訓はなくても国民を教え、遠い神代から現存して日本の風気を振興し、国民の道徳を維持し、日本が建国以来2552年の今日（明治26年）に至るまで少しの欠損もなく国際社会の中であって立派に国としての体面を保てるようになってきました。この無名無言の教すなわち固有宗教は忠孝仁義を重んじます。しかし、元来そういう名目はないのです。これらの名目は支那で造られてわが国に輸入されたものです。そして忠孝仁義の実行は、その名目の本国である支那に勝って日本において良く行われたようです。支那の書物を見ると、常にわが日本を尊んで、あるいは君子国と呼び、あるいは礼儀の<sup>サト</sup>郷と唱え、又は日本国民のことを<sup>ホ</sup>誉めて「君子の<sup>フウ</sup>風あり」などと言っています。

\* 「君子国」は唐書、「礼儀の郷」は

明州刺史鄭審則が僧<sup>サイチョウ</sup>最澄に与えた書。「君子の風」は王維が日本に還る朝監を送る送別の辞に見受けられます。

固有宗教はこのように善良な性質をそなえていましたけれども、まだ充分な発達をとげず未だ成長しきらないうちに外部から成熟した宗教が渡米したのです。そのため日本の方は善良ながら幼稚、外来の方は不善ではあるが成人しているために、ついにその障害を受けて元服命名する機会を失ってしまいました（西暦285年に儒教が渡来し、西暦552年に仏法が伝来した）。

元服命名して世に現れ出なかったけれども、その実力は依然として存在し、潜在的に国民を支配し、一個人に現れては<sup>ヤマトダマシイ</sup>大和魂となり、一国の上に現れては国体となりました。ですから儒教もその本性のまま日本で勢力を伸ばすことが出来ず、ついに支那服を脱いで日本儒教となり、仏教もその特色のまま権威を<sup>ホシイママ</sup>恣にする<sup>シンブツ</sup>ことが出来ず、ついに神仏<sup>コンコウ</sup>混淆の説が生まれて一種異様の仏教を形成しました。

(以下、次号に続く)

## 地域別とりなし祈禱会

### 1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師  
〒001-0032  
札幌市北区北 32 条西 5-3-27  
TEL 011-717-1801

### 2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明  
〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ  
TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

### 3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄  
〒335-0003 蕨市南町 3-3-12  
TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

### 4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師  
\* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)  
\* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師  
TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 4 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉  
\* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)  
\* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉  
TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第 1 月曜日午後 1 時 30 分

### 5. 神奈川県

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師  
〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17  
TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119  
URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>  
毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

### 6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師  
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1  
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後 7 時 30 分

### 7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師  
〒420-0841 静岡市上足洗 4 丁目 6-16-7  
TEL 054-248-4058 毎月第 1 日曜日午後 2 時

### 8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・ローズマリー・バス  
 〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館 3F  
 TEL 075-781-3330 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

9.兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師  
 〒676-0015 高砂市荒井町紙町 1-34  
 TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

10.福岡県

福岡市内 : 伊都キリスト教会 友納徳治牧師  
 〒819-0167 福岡市西区今宿井尻 12-4-1  
 TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日7時30分

11.大分県

別府市 : フルゴスペル イエス・キリスト教会 永野誠治牧師  
 〒874-0933 別府市野口元町10-1  
 TEL & FAX 0977-26-3692  
 e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp 毎週金曜日午後7時30分





## 2005年10月号祈りの焦点

### (1) 継続的課題

1) 公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

\* 9月11日の衆議院議院選挙では自民党が大勝し296議席を獲得しました。また、投票率が上がったため公明党の議席は3議席減りました。その結果、自民党は公明党に頼らなくてもやっていける可能性が強まったと言えるでしょう。公明党は平和の党という理念を押し立てて来たはずなのに、小泉政権下で、公明党は自衛隊イラク派遣、医療費値上げ、個人情報保護法など、創価学会の意向や公明党の理念と異なる政策を実行することを強いられてきました。小泉政権は憲法を改正して自衛軍をもつ方向に動き出すことは確実ですから、公明党は自民政権下に残るか、連立から外れるかの二者択一を迫られることになるでしょう。

2) カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

\*

3) 天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中にあつて、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

【解説】

\* 天皇・皇后両陛下のご健康が守られ、皇室を内部から崩壊させようとしている創価学会勢力に対して毅然たる態度で伝統を守ることが出来るように。  
\* 皇室典範有識者会議が出した一応の結論は、「女性天皇容認論」、「女性宮家論」であったと報じられました。こういう結論を出すために召集された会議ですから当然でしょう。このメンバーが解散となり、相応しい有識者が選ばれるように祈りたいと思います。  
\* 開かれた皇室を求める道は天皇否定への道です。英国の王室を見ればわかるでしょう。日本の皇室は他の王室とは根本的に違う伝統を持っているので、菊のカーテンにかこまれていてこそその尊厳が守られるのだと思われます。

4) 互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

【解説】

5) キリスト教のインターネット伝道が進展するように祈りましょう。

〔解説〕

\* 戸別訪問やビラ配りがかなり社会的に制限を受けてきた反面、ホームページやEメールを通じてのインターネット伝道は、ますます進展する見込みがあります。  
\* ただし、教会のホームページにおいては、「チャットと掲示板」のコーナーは作らない方が賢明かと思われます。

6) TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の

見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

- \* 9月11日の選挙において、主要新聞社、主要テレビ局はこぞって小泉・自民を持ち上げるための偏向報道に走り、国民は完全に情報操作の渦に巻き込まれたと言えるでしょう。これから何が起こるのか恐ろしい予感がします。
- \* 今回はいわゆる「アナウンス効果」（あまり宣伝しすぎると逆効果になる現象）が現れませんでした。

7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

8)日本のために祈る「とりなし者」が増えるように祈りましょう。

\*北海道から沖縄まで、あらゆる市区町村にひとりずつ「とりなし者」が起こされるように。

## (2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を畏れ、国民の意向を無視した独裁的な政権運営を改め、日本の独立と国際平和に役立つ政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

郵政民営化法案は、再び衆議院に差し戻されて審議され、可決されるでしょう。その審議の過程で国民の財産が国際資本に掠め取られないような歯止めがかけられるように、また日本のためにプラスになるような運営がなされるように祈りましょう。

組織犯罪処罰法案(別名、共謀罪処罰法案)、及び、外国人地方参政権付与法案などが廃案となるように祈りましょう。

2)日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

\*キリスト教と「神ながらの道」(古神道)との接点についての理解が深められるように、今回は故松山高吉牧師の「神道起源」を現代語訳で連載することにしました。

3)国会祈祷会に聖霊の導きが与えられるように。

4)北朝鮮における金正日の独裁体制が崩壊するように祈りましょう。

〔解説〕

\*このまま行けば、金正日政権が共産主義によって南北朝鮮を統一することになる恐れがあります。

5)家庭教育が全ての教育の基盤となるように祈りましょう。

〔解説〕

\*親が子を養い、やがて子が親を養うという倫理が日本社会に回復されますように。

6)ボランティア生活が義務化されるように祈りましょう。

\*現在の学校教育施行規則では、「ボランティア生活を行おう」となっていますので、ほとん

ど実行されていません。規則が「ボランティア生活を実行せねばならない」という文言に改正されるように。

\*また旧日本軍の中で行われた地獄のように陰惨なリンチが起り得ないような歯止めがかけられることを祈りましょう。

7)児童への虐待、女性への虐待、老人への虐待が防止されるように祈りましょう。

8)ニート対策として、就職の場が大きく開かれるように祈りましょう。

9)日本の農業の自給率が上向きになるように祈りましょう。

〔解説〕

\*世界の大国は皆、食料の自給化を目指しています。日本も農業大国をめざすべきです。

10)日本の経済が上向くように。又、米国資本に邦銀や郵便事業を売り渡す小泉・竹中政権の野心が打ち砕かれるように祈りましょう。

11)日本國憲法改正が神の御心にかなった方向に導かれるように。

12)イスラエルの平和のために祈りましょう。

\*シャロン首相の強権発動によって、イスラエル人殖民のガザからの撤退が完了しましたが、ハマス等過激派の武装解除が速やかに行われ、様々な種類のテロ活動が沈静化する必要があります。パレスチナ人がイスラエル人との平和共存を求めるように神のお導きを祈りましょう。

## 《会計報告》(2005年6月1日～7月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	64,500	交 通 費 印 刷 費 資 料 費 郵 送 費 事 務 費 振替手数料 電 話 料 会 場 費 委 員 会 費	3,720 2,577 9,600 2,200 20,420 190 13,280 11,760 3,000
小 計	64,500	小 計	66,747
前月繰越	80,995	翌月繰越	78,748
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	196,669	合 計	196,669

## 【献金者芳名】(順不同)

相模大野教会(神奈川県)	2回	佐藤節代(神奈川県)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	東京中央とりなし祈禱会席上献金	2回
高砂教会(兵庫)	1回		

## 【編集後記】

\*2005年10月号のニュースレターをお送りします。9月の委員会で、神道を短絡的に偶像礼拝として排撃するのではなく、神道の本源を理解するための何らかの努力の必要を認めたので、故松山高吉著「神道起源」を紹介することになりました。原文は古文体なので、編集者が現代文体に翻訳したものを連載することにしました。

\*1997年から9年間に亘って日本のためにとりなし委員を務められた林田金弥牧師が本年8月4日に帰天され、8月6日横浜山手バプテスト教会において葬儀が執り行われました。{ああ、勇士は倒れたるかな、戦いの器は失せたるかな！}(サムエル1:27)。しかし、天におけるとりなし者はひとり増し加えられました。

(ヨハネ 皆川尚一)

《次回日本にとりなし委員会予告》  
日時：2005年11月14日(月)12時  
場所：キリスト公会 相模大野教会

